

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

箱根観光情報新聞  
2026春号第二版  
令和8年4月22日発行  
企画制作  
箱根観光情報研究会  
協力  
箱根モビリティサービス(株)  
制作責任者:美馬 哲  
発行部数:700部

無料

ご自由にお持ちください

箱根観光情報研究会

# 箱根観光情報新聞

## 外輪山の景色を満喫しながら歩道歩き

今回は本紙お薦めの春の箱根観光のコースとして、宮ノ下の散策を紹介する。宮ノ下駅改札を出て坂道を少し下ると左側に遊歩道があり、数分歩くとあずまやが現れる。浅間公園だ。大きなベンチがあり、外輪山の景色を楽しむことができる。天気が良ければ駅前のNaraya Cafeでドリンクをテイクアウトして景色を眺めながらいただくのも楽しいだろう(ゴ

ミは必ず持ち帰って欲しい)。浅間公園から有名な富士屋ホテルまでは一〇分程。富士屋ホテルは山口 仙之助氏が一八七八年に創業したクラシックホテルだ。実は本紙二〇二〇冬号で富士屋ホテル館内のミュージアムやギャラリーが見学できることを紹介した。歴代社長や宿泊された著名人の写真、かつて館内で使われていた各種調度品、資料などが展示されている。

二階のバルコニーから眺める歴史的な建造物の景色も素晴らしい。ラウンジでゆったりティータイムを過ごすのも良いだろう。

また、富士屋ホテル周辺には元の宮ノ下郵便局(現ホステル一九一四)、元バスター待合所(現カフェ・ド・モトナミ)、嶋写真店などの古い建物が残っているの

で、異国情緒が漂う街の景色を楽しむ。カフェ・ド・モトナミ二階には一三〇年前のドイツ製ディスクオルゴールがあり、お願いすると珈琲をい

ただきながらその音色を楽しむことができる。興味のある方には是非立ち寄って欲しいカフェだ。なお、宮ノ下の交差点から国道一号線を小涌谷方面に数分歩くと宮ノ下の箱根神社へ続く石段がある。神社の鳥居の向こうに見える外輪山の風景もお薦めだ。



## 箱根ラリック美術館

、漆、タペストリーの装飾品を展示する美術館



箱根仙石原に本紙編集長にとつて思い出深い美術館がある。ラリック美術館だ。本紙創刊号にあたって、名刺一枚と方々だけを持って最初に取材をさせていた。今回、その時の広報のご担当者と六年ぶりに再会、その場で現在のご担当者をご紹介いただき、二度目の取材が実現、貴重なお話を伺うことができた。さて、ルネ・ラリックは一九世紀後半から二〇世紀半ばまで宝飾・ガラス工芸



家として活躍した。当初は曲線と装飾美のアー・ヌーヴォー、後半は直線と機能美が特徴のアル・デコの様式を取り入れて成功した。二つの様式で成功した作家は少ないと言われている。子供の頃から絵の才能が認められ、一〇代半ばで美術学校、工房で技術を学び、二二歳の時に独立してカルティエなどの高級宝飾店にデザインを提供していたらしい。



写真提供:ラリック美術館

左右非対称のジャポニズムの影響を受けたことや自由な造形が可能なガラスを取り入れたこと、さらに右の品質よりも芸術性を重視したデザインが特徴だった。一九〇〇年のパリ万博に宝飾品を出品してグランプリを受賞して名声が確立。その後、香水商フランソワ・コティの依頼で香水瓶のデザインを手がけた。当時、香水は上流階級のもので、量り売りが基本。大量に買い付けた香水を小さな容器に入れ替えて使



写真提供:ラリック美術館

ていた。ラリックはおしゃれな香水瓶をデザイン。

この香水瓶に入れた香水が店頭に並んだことにより、香水が一般の庶民にも手が届くようになったと云う。

ラリック美術館ではルネ・ラリックの芸術家としての変遷を感じることが出来るだろう。

館内にはレストランやショップの他に一九二八年にラリックが内装を手掛けたオリエント急行の車両が設置されており、室内装飾を楽しみながらゆったりとしたタイム(四〇分)を過ごすことが出来る。

ご利用の場合はレストランフロントで予約が必要だ。



写真提供:ラリック美術館

なお、レストランやショップは美術館に入館されなくてもご利用できるので、ランチとショッピングで立ち寄るのも楽しそう。

### 名店訪問 傳兵衛蕎麦



箱根関所京口御門前にはお食事処やお土産屋が軒を並べているが、その中で一際目立つ店頭幕がある。店頭幕には「箱根製麺所」と書かれている。

そしてその隣には江戸の風情を感じさせるお蕎麦屋さんがある。傳兵衛蕎麦(でんべいそば)だ。

ご主人にお話を伺ったところ、製麺所は一九五〇年頃に創業、最盛期には三〇件ほどのお店に麵を卸していたらしい。しかし、お蕎麦屋さんの廃業や自家製麵のお店が増えたことで売上



が低下。二〇〇〇年頃に先代のお父様がお蕎麦屋を開き、隣の製麺所で作った麵(蕎麦、饅頭)を使って、田舎風の細くてつるつるした江戸前風のお蕎麦(温かい蕎麦は甘め、冷たい蕎麦は濃いめ)の提供を始めた。

現在のご主人がお店を継いだのは二〇一〇年頃。以来、先代が目指した蕎麦の味を守ってきた。

江戸の風情を感じさせるお店の外観や内装は現在のご主人のこだわりだ。箱根関所の色(柿渋塗の

黒と同じ黒で統一。看板や暖簾の文字にはレトロ調のフォントを採用。店名の傳兵衛は六代前のご先祖様のお名前。

ご主人の家系は江戸時代には現在のお店の隣の場所に居を構えており、役場で傳兵衛氏の戸籍も確認できるそう。お店を継いだ際に歴史を感じさせる店名にしたと考えると、ご先祖のお名前を店名にしたのだ。

江戸時代の旅人の気分に浸りながら江戸前の蕎麦の味を堪能できるお店だ。なお、編集長はこれまでに山菜蕎麦と冷たい月見とろろ蕎麦を堪能。一つ一つ試してのど越しも良く大変美味い。お薦めのお店。」とコメントしている。



旧道沿いの畑宿入口交差点のそばに山小屋佐藤と言う隠れ家的なカフェがある。サラリーマンだったオーナーが早期退職して二〇〇八年に開店したカフェだ。広い敷地には鳥の餌台が



### 山小屋佐藤



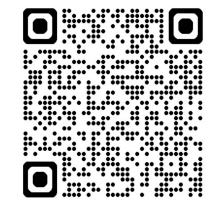
設置されており、店内から野鳥を観察できるよう双眼鏡も用意されている。

オーナーは森林インストラクターをされているため、箱根の歴史や地理、自然にめちゃくちゃ詳しい。

オーナーの楽しいお話を伺いながら丁寧に入れられた珈琲をいただくことができるお店。本紙編集長も毎月立ち寄ってはオーナーとの会話を楽しんでいる。

お薦めはさとうのケーキセット。なお、不定休なので事前にご確認ください。

なお、左記QRコードで過去の記事や画像、編集長の思い出などを紹介した本紙ホームページにアクセスできるのでお試しください。



箱根観光情報新聞QRコード



で事前に電話確認しておくことをお薦めする。

### お願い

本紙ではお客様にできる限り正確に情報をお伝えするよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設のホームページなどで営業日、営業時間などをご確認ください。よろしくお願いいたします。

箱根に観光に来たけれど「どこを見たらいいかわからない。」「効率的に観光したいけれど・・・。」とお悩みのあなた箱根観光は登山ハイヤーがお薦めです。

今すぐ 0120-148-512(携帯OK)へ

